

人生100年時代における「暮らし」「地域」「働き方」について考える

生保産業には今後どのような役割・機能が求められるか？

～長寿化や価値観の多様化が進む中、国民・お客さま一人ひとりが自分らしくくらししていくために～

前号でお知らせした通り、今号から「人生100年時代における『暮らし』『地域』『働き方』」をテーマに、生保産業や労働組合は「人生100年時代」にどう対応すべきかを、組合員のみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

1回目は「人生100年時代における『暮らし』」をテーマに、国民・お客さまが自分らしくくらししていくために、生保産業やその商品・サービスには今後、特にどのような役割・機能が求められるかを見ていきます。

国民生活のベースを支える 社会保障制度の持続性・安定性の向上を

生保産業の役割・機能に触れる前に、社会保障制度について触れたいと思えます。「人生100年時代」においては長寿化のメリットを享受できる一方で、今後、人口減少や少子高齢化、格差・貧困問題などを背景に、国民の将来不安が拡大するおそれもあるため、国民生活のベースを支える社会保障制度の役割は一層増すものと考えられます。

それだけに、国民一人ひとりが世代を問わず安心してくらす社会の実現に向けて、社会保障制度がしっかりとその役割を果たしていけるよう、制度の持続性・安定性向上をはかる必要があります。

「人生100年時代」を健康で安心してくらす時代にするため 「公私ミックス」による生活保障システムの構築を

一方、国民の価値観やライフスタイル・ライフサイクルが多様化する中で、生命保険には、国民一人ひとりのこうした多様な保障ニーズに対応するため、社会保障制度を補完していく役割が一層求められています。また、社会保障制度を持続可能なものとしていくためにも、生命保険のさらなる普及・拡大が一層重要になっているといえるでしょう。

このように「人生100年時代」においては、国民生活のベースを支える社会保障

制度（公的保障）と、国民・お客さま一人ひとりの多様なニーズに対応する生命保険（私的保障）による「公私ミックス」を通じて、国民生活をしっかりと支えていく必要があります。

生命保険が持つ「エンパワーメント」機能のさらなる発揮を

前号で、生保労連では「人生100年時代」を「世代や性別、病気や障がいの有無、仕事や働き方の違いなどを問わず、一人ひとりが持てる力を発揮し、自分らしく働きくらししていくことが一層求められる時代」と捉えているとお伝えしました。

本来、生命保険には、国民・お客さま一人ひとりの多様なニーズに対応し、自分らしく生きることを支える「エンパワーメント機能」がありますが、「人生100年時代」の到来によりリスクの長期化・多様化が一層進む中、益々その機能発揮が期待されているのです。

■ 生命保険の「エンパワーメント」機能

これまでの主な機能

- リスクへの備え
 - 生活の困窮防止
 - 老後資金準備
 - 医療・介護にかかる費用負担

「人生100年時代」に一層重要となる主な機能 ーリスクの長期化・多様化への備えー

- リスクの予防
 - 健康増進、病気・介護予防
 - 早期の老後資金準備
- リスクからの脱却
 - 日常生活への復帰支援
 - 重症化・重病化の抑制

今回は、生保産業や組合員のみなさんの「地域貢献」のあり方について考えます。